

# 学校要覧 2024

独立行政法人国立高等専門学校機構  
秋田工業高等専門学校  
National Institute of Technology, Akita College

# 学校要覧2024 目次

学校の概要	1-1	校歌	..... P1
	1-2	校章	..... P1
	1-3	高等専門学校とは	..... P1
	1-4	沿革	..... P2
	1-5	秋田高専の教育理念	..... P6
			1. 使命 2. 基本方針 3. 目的 4. 3つの方針
本科・専攻科	2-1	本科の概要	..... P13
	2-2	共通教育系	..... P14
	2-3	機械系	..... P15
	2-4	電気・電子・情報系	..... P15
	2-5	物質・生物系	..... P16
	2-6	土木・建築系	..... P16
	2-7	専攻科 グローバル地域創生工学専攻	..... P17
施設・センター等	3-1	図書館	..... P18
	3-2	厚生会館	..... P19
	3-3	学生寮	..... P19
	3-4	情報処理センター	..... P20
	3-5	地域共同テクノセンター	..... P21
	3-6	技術教育支援センター	..... P21
学生と学校生活	4-1	学生の定員及び現員	..... P22
	4-2	入学志願者数及び入学者数	..... P22
	4-3	就職	..... P23
	4-4	進学	..... P23
	4-5	課外活動（クラブ）	..... P24
	4-6	課外活動（コンテスト）	..... P24
	4-7	学校行事	..... P24
組織・教職員情報	5-1	運営組織図	..... P25
	5-2	歴代校長	..... P26
	5-3	名誉教授	..... P26
	5-4	役職員	..... P27
	5-5	役職員数	..... P27
	5-6	役職員の年齢構成	..... P27
	5-7	教員一覧	..... P28
その他データ集	6-1	財務情報	..... P29
	6-2	敷地	..... P29
	6-3	建物	..... P30
	6-4	国際交流協定校	..... P31
	6-5	公開講座開催実績	..... P32
キャンパスマップ・アクセス	7-1	キャンパスマップ	..... P33
	7-2	アクセス	..... P33
	7-3	連絡先	..... P33

## 1-1 校歌

佐々木久春 作詞 / 岡本 敏明 作曲

- |  |  |  |
|--|--|--|
| <p>1. ここ飯島の丘<br/>太平の峰に真向かい<br/>若人の両の腕光る<br/>この腕もて この腕もて<br/>中空に日輪捧げん<br/>あゝ秋田 秋田高専<br/>力ふるわん 力ふるわん<br/>ともに</p> | <p>2. ここ飯島の丘<br/>日本海はるかのぞみて<br/>若人の双の瞳深し<br/>この瞳もて この瞳もて<br/>行く道に灯かかげん<br/>あゝ秋田 秋田高専<br/>真理たずねん 真理たずねん<br/>ともに</p> | <p>3. ここ飯島の丘<br/>みちのくの大地に立ちて<br/>若人の赤き血潮たぎる<br/>この血潮もて この血潮もて<br/>夢多き調べ奏でん<br/>あゝ秋田 秋田高専<br/>あすに巢立たん あすに巢立たん<br/>ともに</p> |
|--|--|--|

## 1-2 校章

左右に配した“A”は本校の所在地“秋田”のイニシャルであり、最も優れている、すべての先に立つことを表す文字であるところから“英知と率先の気風”を表す。

“A（アルファ）”は星座の中でも最も輝く首星に名付けられるところから建学の気風としていた“日本一の高専”を目指すことを表し、また“未知”の意をもつ文字であるところから“A”と“A（アルファ）”を相対して配置することによって“英知と率先の気風をもって未知に対する”エンジニア精神を象徴した。

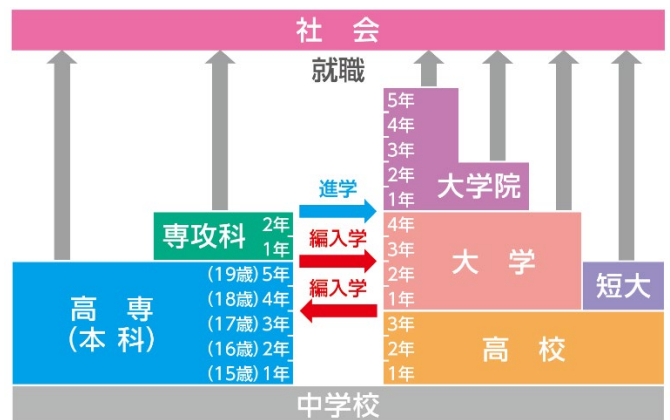


## 1-3 高等専門学校とは

高等専門学校（高専）は、我が国の産業の発展と、科学技術教育のより一層の振興を図るために、昭和 37 年度に新しい高等教育機関として創設されました。

高専には、『深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する』という目的があり、中学校卒業生を入学資格とする 5 年制の一貫教育を行う高等教育機関です。

大学卒業より 2 年早く、大学卒業と同じレベルの知識を身に着けた技術者を世に送り出すことができる高等教育機関です。



# 1. 学校の概要

## 1-4 沿革

1963	昭和 38 年	1 月 23 日	秋田工業高等専門学校設置準備会開催
		3 月 31 日	秋田市飯島に秋田工業高等専門学校設置決定
1964	昭和 39 年	2 月 22 日	昭和 39 年度入学者選抜試験実施
		2 月 23 日	昭和 39 年度合格者発表
		3 月 5 日	校舎竣工
		4 月 1 日	国立学校設置法の一部改正（昭和 38 年法律第 69 号）により秋田工業高等専門学校設置 機械工学科、電気工学科、工業化学科設置 初代校長に秋田大学鉱山学部長理学博士 丹 桂之助 就任
		4 月 18 日	開校式並びに第 1 回入学式を秋田県産業会館において挙行
		9 月 11 日	校章制定
1965	昭和 40 年	3 月 20 日	校舎（寄宿舍、実習工場）竣工
		7 月 1 日	第二代校長に秋田大学鉱山学部教授 赤尾 孝太郎 就任
1966	昭和 41 年	1 月 31 日	陸上競技場竣工
		3 月 20 日	校舎、体育館、寄宿舍竣工
		7 月 1 日	第三代校長に元秋田大学鉱山学部長 野口 清 就任
		11 月 15 日	球技コート竣工
1967	昭和 42 年	12 月 26 日	野球場竣工
		3 月 20 日	学生食堂兼集会所竣工
1968	昭和 43 年	4 月 1 日	事務部に庶務課、会計課設置
		9 月 5 日	校歌制定
		1 月 29 日	武道場竣工
1969	昭和 44 年	9 月 25 日	校舎落成式挙行
		10 月 31 日	水泳プール及び付属施設竣工
		3 月 18 日	第 1 回卒業証書授与式挙行
1970	昭和 45 年	4 月 1 日	土木工学科設置
		3 月 25 日	土木工学科棟、寄宿舍竣工
1971	昭和 46 年	3 月 30 日	熱機関実験室竣工
		4 月 1 日	事務部に学生課設置
		11 月 20 日	図書館竣工
1974	昭和 49 年	3 月 25 日	電子計算機室竣工
		4 月 1 日	第四代校長に東北大学工学部教授工学博士 亀田 満雄 就任
		10 月 5 日	創立 10 周年記念式典挙行

# 1. 学校の概要

1977	昭和 52 年	3 月 16 日	第五代校長に秋田大学鉱山学部長工学博士 梅津 良之 就任
1978	昭和 53 年	12 月 12 日	第二体育館竣工
1979	昭和 54 年	3 月 15 日	実験廃水処理施設・生活廃水処理施設竣工
1980	昭和 55 年	3 月 15 日	一般教室棟竣工
1981	昭和 56 年	2 月 23 日	第六代校長に宇都宮大学工学部長理学博士 鈴木 一夫 就任
		3 月 5 日	厚生会館竣工
1983	昭和 58 年	10 月 31 日	ハンドボールコート竣工
1984	昭和 59 年	1 月 31 日	武道場増改築竣工
		3 月 22 日	課外活動施設竣工
		10 月 21 日	創立 20 周年記念特別講演会開催（於 秋田県民会館）
		10 月 21 日	基幹整備（運動場）竣工
1985	昭和 60 年	1 月 21 日	基幹整備（電気）竣工 非常用放送設備竣工
		3 月 15 日	テニスコート整備竣工
1986	昭和 61 年	12 月 15 日	図書館渡廊下竣工
1987	昭和 62 年	3 月 30 日	寄宿舎誘導灯竣工
		8 月 10 日	第 22 回全国高等専門学校体育大会開催（本校主管）
		10 月 2 日	第七代校長に東北大学工学部教授工学博士 島田 平八 就任
1989	平成元年	10 月 6 日	創立 25 周年記念式典挙行
1992	平成 4 年	4 月 1 日	工業化学科を物質工学科に改組
1993	平成 5 年	3 月 31 日	寄宿舎（東 1 号棟・西 1 号棟）改修竣工
		4 月 1 日	第八代校長に東北大学工学部教授工学博士 萬谷 志郎 就任 土木工学科を環境都市工学科に改組
1994	平成 6 年	3 月 25 日	物質工学科棟竣工
		4 月 1 日	専攻科設置（生産システム工学専攻、環境システム工学専攻）
		8 月 10 日	水泳プール新設竣工
		8 月 25 日	寄宿舎（管理棟）改修竣工
		12 月 1 日	創立 30 周年記念式典挙行
		5 月 1 日	専攻科設置記念式典挙行
1995	平成 7 年	6 月 13 日	電子計算機室を情報処理センターに名称変更
		8 月 31 日	寄宿舎（東 2 号棟・西 2 号棟）を改修竣工
1996	平成 8 年	3 月 4 日	専攻科棟竣工
		3 月 29 日	情報ネットワーク電気設備竣工
1997	平成 9 年	4 月 1 日	一般科目文科系及び理科系を人文科学系及び自然科学系に名称変更
1998	平成 10 年	3 月 25 日	図書総合管理システム導入
1999	平成 11 年	3 月 26 日	図書自動入退館システム導入

# 1. 学校の概要

		4月2日	第九代校長に東北大学科学計測研究所教授理学博士 石亀 希男 就任
<b>2000</b>	平成12年	4月1日	既設寄宿舎を女子寮に転用
<b>2001</b>	平成13年	1月29日	科学技術教育棟竣工（1F：地域共同テクノセンター、2F～4F：低学年講義室）
		3月24日	一般教室棟等・管理棟改修・その他工事着工
		3月31日	寒冷環境工学教育研究センター廃止
		4月1日	地域共同テクノセンター設置
		7月31日	一般教室棟等・管理棟改修・その他工事竣工
		9月13日	地域共同テクノセンター開所式並びに科学技術教育棟新築・一般教室棟・管理棟改修工事竣工式典挙行
<b>2002</b>	平成14年	3月27日	物質工学科棟等改修・その他工事着工
		7月31日	物質工学科棟等改修・その他工事竣工
<b>2003</b>	平成15年	5月15日	機械工学科棟・電気工学科棟・環境都市工学科棟・実習工場改修・その他工事着工
		10月20日	機械工学科棟・電気工学科棟・環境都市工学科棟・実習工場改修・工業技術実習センター新築・その他工事完成
		12月18日	校舎整備完了記念式典挙行
<b>2004</b>	平成16年	4月1日	独立行政法人国立高等専門学校機構法（平成15年法律第113号）の施行により独立行政法人国立高等専門学校機構秋田工業高等専門学校となる 第十代校長に東北大学多元物質科学研究所教授理学博士 島田 昌彦 就任 電気工学科を電気情報工学科に名称変更
		11月19日	創立40周年記念特別講演会開催（於 秋田県民会館）
<b>2007</b>	平成19年	4月1日	事務部の3課を2課（総務課、学生課）に改組 技術教育支援センター発足
		5月14日	「創造工学システムプログラム」がJABEE認定基準に適合していることが認定
<b>2008</b>	平成20年	3月27日	高等専門学校機関別認証評価において、認証評価基準を満たしていると認定
<b>2009</b>	平成21年	4月1日	第十一代校長に東北大学大学院工学研究科教授工学博士 山田 宗慶 就任
<b>2013</b>	平成25年	8月20日	第48回全国高等専門学校体育大会開催（本校開催校）（
<b>2014</b>	平成26年	9月24日	創立50周年記念講演会開催（於 秋田県民会館）
<b>2015</b>	平成27年	3月9日	「創造工学システムプログラム」が日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受ける(中間審査)

# 1. 学校の概要

		3月26日	高等専門学校機関別認証評価において、認証評価基準を満たしていると認定される
		4月1日	第十二代校長に東北大学大学院工学研究科教授工学博士 米本 年邦 就任
<b>2017</b>	平成29年	4月1日	機械工学科、電気情報工学科、物質工学科および環境都市工学科を創造システム工学科に改組
<b>2019</b>	平成31年	4月1日	第十三代校長に東北大学大学院工学研究科教授工学博士 植松 康 就任
<b>2022</b>	令和4年	3月24日	高等専門学校機関別認証評価において、認証評価基準を満たしていると認定される
		4月1日	生産システム工学専攻、環境システム工学専攻をグローバル地域創生工学専攻に改組
<b>2023</b>	令和5年	4月1日	第十四代校長に文部科学省大臣官房参事官総務調整官 高橋 雅之 就任
		10月1日	一般教科人文科学系及び一般教科自然科学系を共通教育系に統合・名称変更
<b>2024</b>	令和6年	1月18日	情報処理センター改修工事竣工（「情報処理センター」は改修後「教育・交流棟」に名称変更）

## 1-5 秋田高専の教育理念

### 1. 使命

本校は、3S「創造・誠実・責任」と3K「健康・研究・協働」を校訓とし、準学士課程では「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」、専攻科課程では「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」を使命としている。

### 2. 基本方針

本校は、「自立・挑戦・創造」を教育理念に、教養教育・専門教育・専攻科複合教育及び卒業・特別研究を通じて、地域を含む世界の産業界発展に貢献し、かつ、地球環境の共生・創成に寄与する人材を養成することを目指している。

教育においては、教養と広い専門の基礎知識・技術の習得に加え、新産業を牽引でき、特定領域で飛び抜けた高度な知識・技術を有し、新しいことへ挑戦する心、異分野の統合に必要な協調性と総合力、および自由な発想とそれを実現する創造力豊かな実践技術者の育成を目指している。

### 3. 目的

本校は、教育基本法（昭和22年法律第25号）の精神にのっとり、及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

#### ■ 学科の人材の養成に関する目的その他の教育上の目的

学科の人材の養成に関する目的その他の教育上の目的は次のとおりとする。

「学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最適な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者」の育成を目指し、以下のような技術者の育成を目的とする。

- ① 地球環境や人間社会と技術の調和を視野に入れて人類の幸福を考え、技術者倫理を理解し、責任ある行動のとれる技術者
- ② 生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有する技術者
- ③ 自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って自ら学ぶことのできる自己啓発型技術者
- ④ 産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現（記述・口述・討論）し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を持つ技術者
- ⑤ 複雑で多岐に亘る工業技術分野に貢献できる技術を有し、融合複合領域にも対応できる能力を備えた技術者

#### ■ 専攻科の目的

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者を養成し、もって広く産業の発展に寄与することを目的とする。

#### ■ 各専攻の人材の養成に関する目的その他の教育上の目的

各専攻の人材の養成に関する目的その他の教育上の目的は次のとおりとする。

- ① 生産システム工学専攻は、複合領域分野や高度情報化社会における先端技術の開発や技術移転にも対応できる機械・電気情報システム工学の「総合力・システム思考能力を有する創造性豊かな技術者」の養成
- ② 環境システム工学専攻は、自己の専門領域を超え、環境への影響に配慮しつつ先端技術に柔軟に対応できるスキルを身につけた物質・環境システム工学の「総合力・システム思考能力を有する創造性豊かな技術者」の養成



## 4. 3つの方針

### 〔本科〕 3つの方針

#### ■ 本科アドミッションポリシー (入学者受け入れ方針)

本校では、自立・挑戦・創造を教育理念に掲げ、社会が必要とする人材の養成を目的として、創造性豊かな技術者の育成を目指しています。そのために本校では一般科目と専門科目からなる5年間の一貫教育を行うため、以下のような人を求めています。

##### (求める学生像)

1. 中学卒業レベルの知識・技能を有し、同等レベルの思考力・判断力・表現力などの能力を身につけている人
2. 理数系に興味のある人
3. 新しいことを知りたい、理解したいという学習意欲のある人
4. 自ら新しいことに取り組むなど、チャレンジ精神旺盛な人
5. 協働して物事に取り組み、ものづくりに関心のある人

##### (入学者選抜方針)

本校では、調査書に重点を置くとともに作文と面接により人物を見極める推薦選抜、および国語・数学・理科・英語の学力試験に重点を置くとともに調査書により人物を見極める学力選抜、および数学・理科・英語の学力試験に重点を置くとともに調査書により人物を見極める帰国生徒特別選抜を行うことにより入学者を決定する。

#### ■ 本科編入学アドミッションポリシー (入学者受け入れ方針)

本校では、自立・挑戦・創造を教育理念に掲げ、社会が必要とする人材の養成を目標として、創造性豊かな技術者の育成を目指しています。そのために本校では一般科目と専門科目からなる専門性の高い教育を行うため、以下のような人を求めています。

##### (求める学生像)

1. 高等学校卒業レベルの知識・技能を有し、同等レベルの思考力・判断力・表現力などの能力を身につけている人
2. 理数系に興味のある人
3. 機械系、電気・電子・情報系、物質・生物系、土木・建築系に関する知識を深め一層理解したいという学習意欲のある人
4. 自ら新しいことに取り組むなど、チャレンジ精神旺盛な人
5. 協働して物事に取り組み、ものづくりに関心のある人

##### (入学者選抜方針)

本校では、数学・英語・専門科目または理科の学力試験に重点を置くとともに、調査書と面接により人物を見極め、実務経験等も考慮した学力選抜を行うことにより入学者を決定する。

#### ■ 本科カリキュラムポリシー (教育課程の編成方針)

ディプロマポリシー（卒業認定方針）に掲げた能力を養成するため、一般科目と専門科目を各学年に系統的に配置し、以下の学習教育目標に沿ったカリキュラムを編成する（具体的な科目配置は別に定める）。

##### (A) 人類の幸福

(A-1) 健全で多様な価値観を理解できるように、全学年を通して人文科学系科目を配置する。

(A-2) 技術者として責任ある行動をとることができるように、5年次に技術者倫理を配置する。

##### (B) 工学基礎知識の修得

(B-1) 数学、自然科学および情報技術に関する基本的知識を修得できるように、全学年を通して自然科学系科目と情報基礎科目を配置する。

(B-2) 基礎工学と専門基礎の知識や技術を修得するために、低・中学年次に専門基礎科目を配置する。

# 1. 学校の概要

## (C) 専門的知識の充実

(C-1) 専門分野の問題を発見し、解決することができるように、高学年次に専門科目および複合融合科目を配置する。

(C-2) 実践的な知識を身に付けるために、全学年を通して実験・実習科目を配置する。

(C-3) 地域や社会の要求している内容を理解できるように、高学年次に特別講義と技術者倫理、校外実習を配置する。

(C-4) 個別に、あるいはチームワークによって、技術的問題を含む課題に取り組み解決することができるように、全学年を通して体育科目、高学年次では基礎研究、卒業研究を配置する。

## (D) コミュニケーション能力

(D-1) 正しい日本語で表現することができるように、全学年を通して国語科目および演習、実験・実習科目を配置する。

(D-2) 英語によるコミュニケーションに必要な基本的能力を身に付けるために、全学年を通して英語科目を配置する。

## (E) 技術の発展

(E-1) 専門領域および複合領域の専門知識を統合して、目的を達成するための問題解決とデザインに寄与できるように、全学年を通して演習科目および基礎研究、卒業研究を配置する。

(E-2) 技術分野の問題を理解し、自主的継続的に学びながら、開発・研究を行ってゆくことができるように、高学年次に基礎研究、卒業研究を配置する。

ディプロマポリシー（卒業認定方針）に掲げた各系および各コースの卒業時に身に着ける能力を育成するために以下の方針に沿ったカリキュラムを編成する。

### (機械系と機械システムコース)

機械系と機械システムコースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、力学、機械設計、製図、製作等の応用知識に加え

て、材料力学、流体力学、熱力学、情報・制御、電気・電子、新材料等の高度な素材加工や動力変換、種々の新エネルギー変換に関する基礎および応用技術を習得できるように専門科目を配置する。

### (機械系と知能機械コース)

機械系と知能機械コースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、力学、機械設計、製図、製作等の応用知識に加えて、材料力学、流体力学、熱力学、電子、情報、制御に関する基礎および応用知識、人体構造や不安を持つ人の心理学、社会科学を習得するとともに、これらを融合させた人に優しいロボット工学の技術を習得できるように専門科目を配置する。

### (電気・電子・情報系と電気エネルギーシステムコース)

電気・電子・情報系と電気エネルギーシステムコースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、電気回路、電気磁気学、電気機器学、電子回路、電子工学、制御工学、組込み技術等を系統的に習得させるとともに、基礎的な融合複合領域の知識を備えた創造性に富む実践力を習得できるように専門科目を配置する。

### (電気・電子・情報系と情報・通信ネットワークコース)

電気・電子・情報系と情報・通信ネットワークコースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、コンピュータシステム、プログラミング、ネットワーク、アルゴリズム、組込み系プログラム等を系統的に習得させるとともに、基礎的な融合複合領域の知識を備えた創造性に富む実践力を習得できるように専門科目を配置する。

# 1. 学校の概要

## (物質・生物系とマテリアル・プロセス工学コース)

物質・生物系とマテリアル・プロセス工学コースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、有機・無機工業化学、無機材料化学、有機合成化学、化学工学、プロセス工学などの専門知識を習得させ、これらの知識のもと、実験実習を通して、機能材料の合成プロセスや化学物質の製造・開発・管理、エネルギー資源の精製、化成品製造、化学プラントのスケールアップ・改良などの応用技術について、実践力を習得できるように専門科目を配置する。

## (物質・生物系とバイオ・アグリ工学コース)

物質・生物系とバイオ・アグリ工学コースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、生物有機化学、生物化学工学、アグリサイエンス、バイオ工学、高分子化学などの専門知識を習得させ、これらの知識のもと、実験実習を通して、バイオプロセスに関わる酵素機能変換、微生物生産、食品素材開発、バイオマスなどの天然物の単離精製、生理活性物質の生産、機能性高分子合成などの応用技術について、実践力を習得できるように専門科目を配置する。

## (土木・建築系と国土防災システムコース)

土木・建築系と国土防災システムコースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、社会基盤の防災と保全技術を支える施設の計画・設計・施工および完成した施設の維持管理と再生のための技術を習得できるように専門科目を配置する。

## (土木・建築系と空間デザインコース)

土木・建築系と空間デザインコースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、建築および都市に関する企画・計画・設計・構造・設備・施工・制度・管理のための技術を習得できる

ように専門科目を配置する。なお、カリキュラムの実施においては、以下の通りとする。

1. 1単位あたりの授業時数は、90分×15回を標準とする。
2. 自学自習や様々な授業形態における教育効果を考慮し、自学自習を含めて1単位あたり45時間の学習を要する「学修単位」科目を効率的に導入する。また、教育効果を上げるため授業形態は講義70%、演習15%、実験実習15%程度の割合で実施する。
3. 講義科目は定期試験の結果とレポートなどの平素の取り組みを総合して成績を評価する。演習・実技・実験・実習科目は課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合して成績を評価する。  
卒業研究は研究成果をまとめた論文、研究発表、研究に対する姿勢などを総合して評価する。
4. 各科目の概要、到達目標、成績評価方法などはシラバスに明示する。

学年 評語	第1学年から第 3学年	第4学年及び第 5学年
	優	100点～80点
良	79点～60点	79点～60点
可	59点～50点	64点～60点
不可	49点～0点	59点～0点

## ■ 本科ディプロマポリシー (卒業認定方針)

以下の学習教育目標に対する能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。( )は校訓・教育理念である。

### (A) 人類の幸福

目標：地球環境や人間社会と技術の調和を視野に入れて人類の幸福を考え、技術者倫理を理解し、責任ある行動がとれる。(健康・誠実・責任)

(A-1) 自国と他国の社会と文化の違いを認め、健全で多様

# 1. 学校の概要

な価値観を理解できる。(健康・誠実)

(A-2) 技術者倫理を理解し、技術者として責任ある行動をとることができる。(責任)

(B) 工学基礎知識の修得

目標：生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有する。

(B-1) 数学、自然科学および情報技術に関する基本的知識を修得している。

(B-2) 基礎工学と専門基礎の知識や技術を修得し、基本的な現象やシステムに対して説明と問題解析ができる。

(C) 専門的知識の充実

目標：自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って自ら学ぶことができる。(自立・協働・挑戦)

(C-1) 得意とする専門分野の問題を発見し、解決することができる。(自立)

(C-2) 実験・実習科目を通して実践的な知識を身に付ける。

(C-3) 企業での実体験などをもとに、地域や社会の要求している内容を理解できる。(協働)

(C-4) 限られた時間内で、個別に、あるいはチームワークによって、技術的問題を含む課題に取り組み解決することができる。(協働・挑戦)

(D) コミュニケーション能力

目標：産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現(記述・口述・討論)し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を有する。

(D-1) 正しい日本語で表現(記述・口述・討論)することができる。

(D-2) 英語によるコミュニケーションに必要な基本的能力を身に付ける。

(E) 技術の発展

目標：複雑で多岐に亘る工業技術分野に貢献できる技術を有し、融合複合領域にも対応できる能力を備える。(挑戦・創造・研究)

(E-1) 専門領域および複合領域の専門知識を統合して、目的を達成するための問題解決とデザインに寄与できる。(挑戦)

(E-2) 技術分野の問題を理解し、自主的継続的に学びながら、開発・研究を行ってゆくことができる。

(創造・研究)

これら(A)~(E)の能力を備えるため、一般科目80単位以上、専門科目87単位以上、合計167単位以上の科目を修得すること。

各系および各コースの学生が卒業時に身に付けるべき能力を以下に示す(育成人物像)。

## 【機械系】

機械工学のあらゆる基礎を習得し、機械システムコースと知能機械コースのいずれかに関する専門性を持つことにより、融合複合領域の専門知識を有し、ものづくり経験を蓄積して物事の本質を見極め、新しい物と技術を生み出す技術者として、創造的で効率的な社会生産活動を協働して行うことができる。

### (機械システムコース)

機械工学のあらゆる基礎を習得し、ものづくり経験を蓄積して物事の本質を見極め、新エネルギーや自動車航空機産業、素材加工に関する高度な技術要請に柔軟に対応して先進的な物と機能を生み出すことができる。融合複合領域の専門知識を有し、創造的で効率的な社会生産活動を協働して行うことができる。

### (知能機械コース)

機械工学および電子、情報、制御に関する基礎を習得し、ものづくり経験を蓄積して物事の本質を見極め、医療機械、福祉機械のようなニーズにしっかりと対応して新たなタイプの知能機械を生み出すことができる。融合複合領域の専門知識を有し、創造的で効率的な社会生産活動を協働して行うことができる。

## 【電気・電子・情報系】

電気エネルギーと情報通信の有効活用に関して基盤となる電気情報工学分野の知識を習得して、電気および情報通信を利用する融合複合領域の専門知識を統合し、課題解決のための方法を模索・実行するとともに新しい技術を生み出すことができる。

### (電気エネルギーシステムコース)

新しい電子材料の創製と、電子回路およびエレクトロニクスデバイス、電気回路、電気エネルギー、電気-機械変換な

# 1. 学校の概要

ど、持続的発展型社会の基盤となる電気エネルギーの発生と供給、それを利用する機器とシステムに関する専門知識を有する実践的創造能力を発揮することができる。

## （情報・通信ネットワークコース）

ソフトウェア技術を中心にしたコンピュータから情報ネットワークなど、高度情報化社会の基盤となる情報処理と通信などの情報システムに関する専門知識を有する実践的創造能力を発揮することができる。

## 【物質・生物系】

物質・生物に係る基礎専門知識を習得し、高機能材料の創製や物質循環に係る元素・生物資源の転換利用など、最先端技術に対応できる柔軟な思考力と創造力、実践力を身に付けており、さらに、医農工連携などの融合複合領域に関する専門知識を修得して、グローバル展開する産業の中で活躍できる。

## （マテリアル・プロセス工学コース）

有機化学、無機化学、分析化学、物理化学などの基礎専門知識を兼ね備え、機能性材料の合成や評価、工業化された製造プロセスの運転・最適化など、最先端の融合分野に深く関わる高度な実践的技術を有し、持続可能な社会の実現に貢献することができる。

## （バイオ・アグリ工学コース）

生物化学、分析化学、分子生物学などの基礎専門知識を兼ね備え、生物を活用した有用物質の生産や評価、バイオマスの変換利用など、最先端のバイオテクノロジーに深く関わる高度な実践的技術を有し、持続可能な社会の実現に貢献することができる。

## 【土木・建築系】

道路、橋梁、河川、港湾、宅地造成地などの防災と保全技術、建築・都市に関する計画とデザイン、設計、およびこれら社会基盤の施工と維持管理のための技術を総合的に理解して、融合複合領域の専門知識を有し、課題解決のための方法を探し出し実行できる。

## （国土防災システムコース）

社会基盤の防災と保全技術を支える実践的かつ専門的な知識と技術を理解し、課題解決のための方法を模索・実行

することができる。

## （空間デザインコース）

建築および都市に関して、実践的かつ専門的な知識と技術を理解し、課題解決のための方法を模索・実行することができる。

## 〔専攻科〕 三つの方針

### ■ 専攻科アドミッションポリシー （入学者受け入れ方針）

#### 1) 教育理念

グローバル地域創生工学専攻は、急激な社会構造の動きに同調でき、地域との連携活動を発展させた、より具体化・可視化した教育プログラムによって、グローバルな視点をもちローカルな場での実践や影響力を発揮する高度な技術者等の人材を育成する。

#### 2) グローバル地域創生工学専攻の求める人材像

- ① 基礎専門学力を有し、実践的技術を支える先端知識を融合し、境界領域のこれまで未到達の技術をデザインすることに意欲のある人
- ② 社会の急激な変化に追従できるだけでなく地域社会のパラダイムシフトを創出することに意欲のある挑戦するマインドを備えた人
- ③ 地域のオープンイノベーション創出へ接続する志向を有する人

### ■ 専攻科カリキュラムポリシー （教育課程編成方針）

修了認定方針を達成するために、以下の専攻全体のカリキュラムポリシーを定める。

- 1) 課題を発掘・解決する能力を備え、このためにリベラルアーツを基盤として、自らの専門性の深化と異分野との融合をできる能力を修得する。
- 2) 技術者倫理を理解し、社会の急激な変化に貢献できる専門的な技術を有し、予測不可能なことにも多角的に



# 1. 学校の概要

かつ挑戦するマインドによって対応できる能力を修得する。

- 3) グローバルな視点でローカルに活躍するため、論理を正確に表現でき、かつ国際的にも通用するコミュニケーション能力により、オープンイノベティブな志向性を修得する。

さらに、専攻全体のカリキュラムポリシーに加え、各コースのカリキュラムポリシーを定める。

## 【機械工学コース】

本科課程の機械システムコースと知能機械コースにおいて修得した専門能力と、専攻科における物理学、数学等の基盤科目、リベラルアーツを基盤とし、他コースの基礎概念を融合化した上で、新たな機械システムや知能機械等の開発・製造並びに応用技術等に深く関わる専門教育を行い、異分野の技術との融合にもチームとして果敢に挑戦し、境界領域における国際的な研究・開発能力によって地域創生に貢献するイノベティブな技術者を育成する。

## 【電気情報工学コース】

本科課程の電気・電子・情報系、電気エネルギーシステムコースと情報・通信ネットワークコースにおいて修得した専門能力と、専攻科における物理学、数学等の基盤科目、リベラルアーツを基盤とし、他コースの基礎概念を融合化した上で、ICTを駆使した先端デバイスによる電気機器システム並びに応用技術等に深く関わる専門教育を行い、異分野の技術との融合にもチームとして果敢に挑戦し、境界領域における国際的な研究・開発能力によって地域創生に貢献するイノベティブな技術者を育成する。

## 【物質工学コース】

本科課程の物質・生物系、マテリアル・プロセス工学コースとバイオ・アグリ工学コースにおいて修得した専門能力と、専攻科における物理学、数学等の基盤科目、リベラルアーツを基盤とし、他コースの基礎概念を融合化した上で、新物質・生体由来素材等の製造並びに応用技術等に深く関わる専門教育を行い、異分野の技術との融合にもチームとして果敢に挑戦し、境界領域における国際的な研究・開発能力によって地域創生に貢献するイノベティブな技術

者を育成する。

## 【建設工学コース】

本科課程の土木・建築系、国土防災システムコースまたは空間デザインコースにおいて修得した専門能力と、専攻科における物理学、数学等の基盤科目、リベラルアーツを基盤とし、他コースの基礎概念を融合化した上で、社会基盤の整備・防災・保全技術、都市及び地域の計画・デザイン技術等に深く関わる専門教育を行い、異分野の技術との融合にもチームとして果敢に挑戦し、境界領域における国際的な研究・開発能力によって地域創生に貢献するイノベティブな技術者を育成する。

## ■ 専攻科ディプロマポリシー（修了認定方針）

準学士課程で修得した専門性に加え、専攻科課程では、その専門性をより細分化・深化させ、人材育成像に示された人材を育成するため、以下に示す4つの能力を身につける。

- 深化したより高度な専門知識と技術を獲得する能力
- 複数の領域をまとめる総合力により、異分野との境界領域に見出される融合なくしては存在しないもの・ことをデザインできる能力
- 予測不可能なことへの対応能力を備え、技術者倫理と危機管理を理解し、修得した高度で実践的な知識と技術を背景に既存技術の転換や革新的な技術の開発をし、必要に応じた知識と技術を活用して課題を発掘しこれに組み込む能力
- 他者とのコミュニケーション、協同、異文化理解の姿勢を有する技術者としてグローバルな視野をもってローカルな地で活躍するための最良の解決策を導出し、実践できる能力

これらの能力を身につけ、一般科目12単位以上、専門科目50単位以上、合計62単位以上の科目を修得した学生に対して課程修了を認定することとする。

## 2-1 本科の概要

秋田高専は、創造システム工学科という 1 つの学科です。1 年生の工学概論で、それぞれの専門でどんなことを勉強できるかを知ってから系を選ぶことができます。

ものづくりや情報教育など、どの系でも共通して必要な科目も 1 年生で学びます。2 年生から系に分かれて、それ

ぞれ専門的な科目を学び始めます。

4 年生からはさらに細分化されたコースに分かれ、それぞれの専門を極めます。同時に、系共通の科目も選択することができ、融合複合分野の基礎知識を習得することができますようになっています。

1 年	創造システム工学科 定員 160名 「創造システム工学科」として学科共通の基礎科目を学びます。 1 学科体制							
2 年生進級時に 4 系列の中から適した系を選びます								
2 年 3 年	機械系	電気・電子・情報系		物質・生物系		土木・建築系		
	社会基盤を支える重要な専門。技術のひとつが機械工学です。多様化する社会、機械系ではニーズに十分対応出来る有能、なエンジニアを育てるために関連する、専門科目のみならず与えられ、他分野の知識習得や課題を学生グループだけで力を合わせて設計製作した機器によって解決するような特色のある授業を行っています	電気回路、電気磁気学、電子デバイス工学、電気機器学、情報処理コンピュータ基礎などの電気エネルギーと情報通信の広い範囲わたり、基盤となる専門知識と技術について学びます。そして、コンピュータ制御・計測などの融合複合領域の専門知識を統合して「情報技術を身に着けた課題解決方法を生み出す創造性に富む電気電子システム技術者」を育成します。		物質・生物に関する基礎・専門知識を習得し、機能性マテリアルの合成、新規製造プロセスの開発、バイオマスの変換利用、微生物生物、食品素材開発など、最先端技術に対応できる柔軟な思考力と創造力、実践力を身に着けます。		土木工学や環境工学、建築学等の建築分野に関する広い知識が学べます。橋、道路、鉄道などのインフラや水質などに加え、建築・都市空間のデザインや計画、交通計画、CAD・CG等を学び、研究します。履修条件を満たすと、卒業時には測量士補の資格が得られ、1 級建築士の受験資格が発生し、実務系ケインにより技術史の受験資格も得られます。卒業後は建築会社コンサル、国や地方公務員、建築家、研究者などの道があります。		
4 年生進級時には系の 2 コースの中から 1 コースを選択し、さらに専門分野を学びます。								
4 年 5 年	機械システム	知能機械	電気エネルギー	情報・通信ネットワーク	マテリアル・プロセス工学	バイオアグリ工学	国土防災システム	空間デザイン

## 2-2 共通教育系

### ■ 国語・社会・外国語・芸術科目

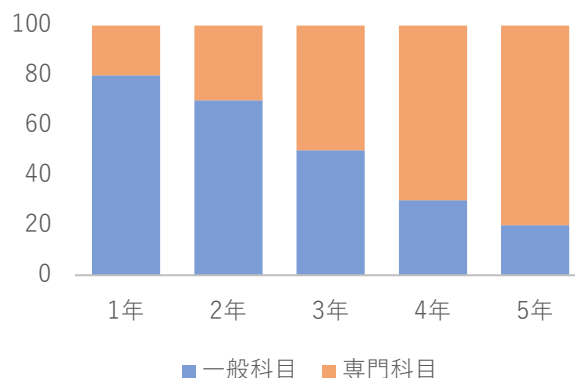
国語・社会・外国語・芸術科目の目標は、学生に豊かな知識と教養を身につけさせ人間形成の基盤を作ること、専門教育を受けるのに必要な学問的な基礎を修得させることである。教育課程はその目的に沿うように配慮されている。さらに高学年では社会、英語の選択科目が設定され、より幅の広い教育を目指している。

### ■ 数学・理科・保健体育科目

数学・理科・保健体育科目では、創造システム工学科内の各コースに共通な、一般科目教育課程の数学、理科(物理、化学)、体育および各コースの融合・複合科目(応用数学、応用物理)を担当しており、専門科目の基礎となる理数系学問の教育と、心身ともに健康な学生の育成を目指した保健体育の教育を行っている。また、専攻科の理数系科目(物理系と数学系科目)も担当しており、各教員の専門性を活かしながら、幅広くかつ深い知識・教養を身につけた技術者の育成に取り組んでいる。

### ■ くさび型教育

一般科目と専門科目の学年別比較



5年一貫教育の特徴を活かした「くさび型教育」は「一般科目」と「専門科目」を有機的に関連させた効果的な教育です。理論だけでなく、実験・実習などの実践的技術教育を行っています。



### 2-3 機械系



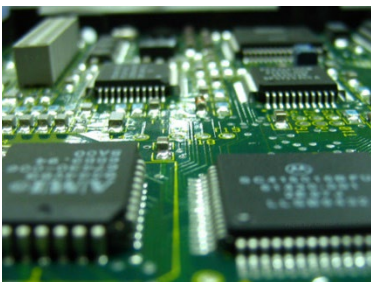
機械系では工学の基礎となる「機械工学」を身につける。工業化社会において重要な位置を占めているため、卒業生の進路も多種多様で様々な職業

で活躍している。技術の革新に伴い、最近の機械は人間の頭脳と神経に相当するコンピュータとセンサを持ち「知能化」してきた。すなわち機械工学はマイクロエレクトロニクス工学、ソフトウェア工学、医療・福祉工学などの周辺

分野の工学と融合して発展してきている。

機械系では、このような最近の知能機械にも対応できるように、機械に関する基礎科目である材料力学、機械力学、熱力学、流体力学を重視するとともに、電気・電子工学、情報処理、制御工学、材料工学などについても十分に習得できる。また、工作実習、設計製図、ロボット製作、CAD/CAMなどの実践的な内容を修得する。4、5年生では研究室に配属され、工学実験、インターンシップ、基礎研究、卒業研究などを通して総合的な能力を養い、豊かな創造性を持った機械工学技術者を養成することを目指している。

### 2-4 電気・電子・情報系



社会生活や産業分野では安定した電気エネルギー供給を行うことが不可欠であり、電気機器は1980年代からの半導体技術

の進歩によるパワーエレクトロニクス技術等により制御されている。さらに、制御はコンピュータにより行われ、最近では多くの機器が高速情報通信ネットワークで結ばれ持続的発展社会の基盤となっている。加えて、ドローンやバーチャルリアリティ等の新たな技術は産業を生み出し、多方面に展開されている。

電気・電子・情報系では、【電気エネルギー】、【電子材料】、【情報】、【通信ネットワーク】をキーワードに、基礎学力を重視し、実験実習や卒業研究を通じて基礎力から応用力・実践力を養うとともに、創造力を育成できるようカリ

キュラムが組まれている。これにより、電気エネルギーの安定供給を支え、電気材料開発や電力変換・貯蔵・利用を行う知識技術を、そして、メカトロニクス技術を含む電気電子機器を半導体やコンピュータ制御的側面から支える知識・技術を、さらには、各種ソフトウェアの開発やCG技術等について通信ネットワーク網をも活用する知識・技術を効率よく学ぶことができる。そのために、秋田高専で唯一の系独自のコンピュータ室を設置し、十分な習得環境が整備されている。

特に、4年生からは「電気エネルギーシステムコース」と「情報・通信ネットワークコース」を選択し、得意とする学問分野能力を延ばし、飛抜けた高度知識・技術を習得する。卒業生は、国内外の産業界のあらゆる分野で活躍しており、それぞれの企業の中であって、総合的技術を発揮し、素晴らしい実績をあげて、とても高い評価を得ている。

## 2-5 物質・生物系



化学工業は、多様な材料を提供する素材産業のみならず、エネルギー・医療・食品など広範な産業に深くかかわりながら、現代の持続性社会を根底から支えている。最近では、高度なバイオテクノロジーを活用した医農工連携分野などの発展もめざましく、こうした新しい分野にも適応し活躍できる化学技術者の育成が求められている。

物質・生物系では、物質工学と生物工学の基礎を関連付けて教育し、燃料電池や炭素ナノ材料、バイオマテリアル

などの新しい技術や材料に対応できる柔軟な思考力と応用力を持つ物質工学と生物工学に通じた化学技術者の育成を基本方針としている。そのため低学年では、化学と生物に関する基礎科目を履修し、4年生から「マテリアル・プロセス工学コース」と「バイオ・アグリ工学コース」のいずれかのコースを選択し、それぞれの専門科目を履修するとともに、両コースに関連した共通専門科目を履修できるようになっている。また、さらに深く勉学を続けたい学生は、卒業後に高専の専攻科に進学したり、国立大学の3年生に編入学している。卒業生は、各種研究機関、石油化学産業、エレクトロニクス、製薬、食品、化粧品分野など幅広い業界で化学技術者として活躍している。

## 2-6 土木・建築系



土木・建築系では、社会基盤の整備、建築の計画設計、地域づくり、まちづくりを担う建設技術者を養成している。土木工学は、生

活環境の向上と自然災害からの防御を目指して多岐にわたる社会基盤を整備することを目的とする。さらに、環境保全や省エネルギー化への取り組み、そして人口減少や高齢化の進展ともあいまって、より豊かで潤いのある生活重視型社会の構築へ向けた社会資本の整備を実現する。建築学は、建築物を中心とした都市および地域を含む生活環境空間の計画・意匠・環境・構造・施工等を課題として取り組み、これらを統合して、豊かで安全、快適な生活環境空間を創造することを目的とする。そのための課題や問題解決のための方法を模索・提案・創造・実現する。

土木・建築系では、土木工学と建築学を融合して教育を

行うもので、2年生から3年生までは建設に関する基礎科目を修得し、4年生からは「国土防災システムコース」と「空間デザインコース」のいずれかのコースを選択する。国土防災システムコースでは、社会基盤の整備と自然災害からの防災技術、および土木構造物の維持管理技術を修得するとともに、空間デザインコースでは、建築物と周辺環境の融合などデザイン的特性に関わる理論的かつ実践的なデザイン手法を修得することとしている。両コースの選択科目では、他のコースとの融合科目と他の系との複合科目を履修して、より深い専門性と幅広い知識が習得できるカリキュラムとしている。

卒業後の進路は、就職先として建設会社、設計コンサルタント、国や地方公務員等がある。将来は、施工管理技士、技術士、建築士等の資格の取得も可能である。さらに、本校専攻科への進学や大学への編入学が可能である。

## 2-7 専攻科 グローバル地域創生工学専攻

専攻科は本科5年間の技術者基礎教育の上に、より高度な専門と広範な基礎的知識や技術を修得するため、さらに2年間、教育・研究を行う高等教育課程です。専攻科において所定の単位を修得し、大学改革支援・学位授与機構に申請することにより、大学学部卒業生と同じ学士(工学)の学位を取得することができます。専攻科修了後は就職のほか、大学院への進学が可能となります。

専攻科では各コースの研究室に配属され、2年間の研究を通して専門性をさらに高めることができます。研究成果は学会で発表する機会があります。

### 1. 創造力豊かで高度な技術教育

人間性と創造性が豊かで、かつ高度な技術修得のため、特別研究、創造工学演習、特別実験を重視しており、特に特別研究では各自が選択した研究テーマについて、担当教員の指導のもと高度な研究に取り組みます。

### 2. プレゼンテーション能力の向上

社会のニーズに応えるためには、正しい日本語と英語による表現が必須であり、特に英語は応用英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと充実したカリキュラムとなっています。

### 3. 産業社会のグローバル化に対応した広範な技術分野で活躍できる教育

専門科目では本科で修得した内容に、さらに高度な技術内容を付加し、広範な技術分野で活躍できる実践的教育を行います。

#### ■機械工学コース

本科課程の機械システムコースと知能機械コースにおいて修得した専門能力と、専攻科における物理学、数学等の基盤科目、リベラルアーツを基盤とし、他コースの基礎概念を融合化した上で、新たな機械システムや知能機械等の開発・製造ならびに応用技術等に深く関わる専門教育を行い、異分野の技術との融合にもチームとして果敢に挑戦し、境界領域における国際的な研究・開発能力によって地域創生に貢献するイノベティブな技術者を育成します。

#### ■電気情報工学コース

本科課程の電気・電子・情報系、電気エネルギーシステムコースと情報・通信ネットワークコースにおいて修得した専門能力と、専攻科における物理学、数学等の基盤科目、リベラルアーツを基盤とし、他コースの基礎概念を融合化した上で、ICTを駆使した先端デバイスによる電気機器システムならびに応用技術等に深く関わる専門教育を行い、異分野の技術との融合にもチームとして果敢に挑戦し、境界領域における国際的な研究・開発能力によって地域創生に貢献するイノベティブな技術者を育成します。

#### ■物質工学コース

本科課程の物質・生物系、マテリアル・プロセス工学コースとバイオ・アグリ工学コースにおいて修得した専門能力と、専攻科における物理学、数学等の基盤科目、リベラルアーツを基盤とし、他コースの基礎概念を融合化した上で、新物質・生体由来素材等の製造ならびに応用技術等に深く関わる専門教育を行い、異分野の技術との融合にもチームとして果敢に挑戦し、境界領域における国際的な研究・開発能力によって地域創生に貢献するイノベティブな技術者を育成します。

#### ■建設工学コース

本科課程の土木・建築系、国土防災システムコースまたは空間デザインコースにおいて修得した専門能力と、専攻科における物理学、数学等の基盤科目、リベラルアーツを基盤とし、他コースの基礎概念を融合化した上で、社会基盤の整備・防災・保全技術、都市および地域の計画・デザイン技術等に深く関わる専門教育を行い、異分野の技術との融合にもチームとして果敢に挑戦し、境界領域における国際的な研究・開発能力によって地域創生に貢献するイノベティブな技術者を育成します。

## 3-1 図書館

開かれた図書館をめざし、知的情報の検索・収集・利用に力を入れています。図書の利用は電算化されています。図書の貸出や蔵書の検索が簡単に行えます。またインターネットを通じて、他の図書館で所蔵している図書や学術文献を検索することができるようになっています。

蔵書 9万3千冊、ほかに DVD、音楽 CD 等の視聴覚資料もそろえています。閲覧室とラーニングcommonsには学生向けの雑誌 16 種と各種の新聞が備えてあり、自由に読

むことができます。

貸出は一人 5 冊まで、2 週間以内となっているほか、春季・夏季・冬季の休業中には長期貸出もしています。平日は夜 8 時まで開館し学生の便宜を図っています。

学生が読みたい本を自ら購入できるブックハンティングなど、学生と図書の出会いの場をつくる環境づくりにも努めています。

総面積	1,588 m <sup>2</sup> (鉄筋コンクリート造り一部 2 階建)
図書室	閲覧室・書庫・事務室 (学術情報係)
特別教育施設	
その他	ラーニングcommons・会議室・倉庫・和室



### ■蔵書

区分	図書			雑誌		
	和書	洋書	計(冊)	和雑誌	洋雑誌	計
総記	6,625	260	6,885	781	74	855
哲学	3,039	288	3,327			
歴史	5,517	35	5,552			
社会科学	5,956	397	6,353			
自然科学	15,211	1,658	16,869			
工学	17,887	801	18,688			
産業	1,301	14	1,315			
芸術	3,875	76	3,951			
語学	3,980	1,621	5,601			
文学	11,020	1,704	12,724			
小計	74,411	6,854	81,265			
製本雑誌	5,412	6,752	12,164			
合計	79,823	13,606	93,429			



## 3-2 厚生会館

厚生会館は学生の課外活動や日常生活に利便を提供、学生及び職員の福利厚生の維持・増進を図るために設置されたものです。1階には談話コーナー、2階には保健室、30畳

の和室、相談室などがあり、健康相談・クラブ活動・合宿研修などに活用されています。

名 称		面積	名 称		面積
1階	旧 食 堂	180m <sup>2</sup>	2階	保 健 室	57m <sup>2</sup>
	旧 厨 房	60		学生相談室	29
	旧 売 店	45		課外活動共用室	37
	談話コーナー	60		和 室	58
	ホ ー ル	66		廊下・その他	48
	廊下・その他	41		延 面 積	681m <sup>2</sup>



## 3-3 学生寮

本校の学生寮は青雲寮と名付けられています。全部で4棟(男子寮が3棟、女子寮が1棟)あります。現在、1～5年生までの本科生と専攻科生、さらにはマレーシア、ブルネイ、ウガンダ、ラオス、タイ、モンゴルからの留学生(4月から6月にはフランスからの短期留学生)を交えて、約130名の学生が生活をともにし、勉学やクラブ活動に励んでいます。

寮の行事は、すべて寮生会が中心となって企画・運営しています。主な行事は、寮祭、スポーツ大会、予餞会などで、これら各種行事を通じた寮生相互の交流が図られています。また、本科5年生を対象としたテーブルマナー講習会もあり、青雲寮の名物行事として大変好評です。

寮の設備としては、各棟に補食室があり、冷蔵庫や電子レンジを用意しています。また、各居室にはそれぞれ机、



椅子、ベッドがあるほか、各階の洗面所には乾燥機付き全自動洗濯機が備え付けられています。さらに、パソコンルームのほか、自学自習室が設けられており、勉学やさまざまな活動に利用されています。

### ■学生寮の行事

4月～5月	6月～7月	10月～11月	1～2月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入寮生歓迎会</li> <li>・寮生総会</li> <li>・早朝スポーツ大会</li> <li>・避難訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーブルマナー講習会</li> <li>・寮祭</li> <li>・共同学習会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寮長選挙</li> <li>・寮生総会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予餞会</li> <li>・スポーツ大会</li> <li>・共同学習会</li> </ul>

## 3-4 情報処理センター

情報処理センターは、本校の情報処理教育の中心となる施設です。センター内には情報教育ルーム、マルチメディアルーム、LL 教室があり、自由な利用が可能です。また、インターネットに常時接続されたパソコンも 153 台完備し、電子メールの送受信や授業などに広く利用できる環境が整備されています。

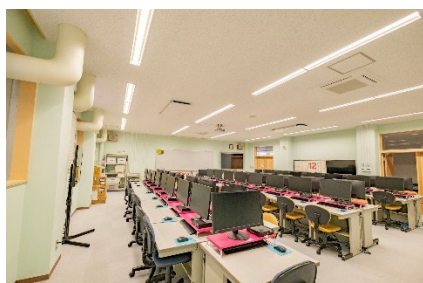
面積

◎254 m<sup>2</sup> (図書館棟 2 階) … 情報教育ルーム・マルチメディアルーム・情報準備室・倉庫

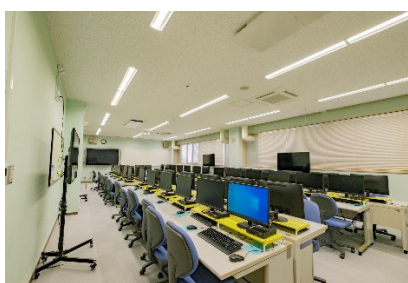
◎209 m<sup>2</sup> (図書館棟 1 階) … LL 教室・サーバールーム・事務室

情報教育ルーム・マルチメディアルーム・LL 教室		
パソコン	Lenovo ThinkCentre M720q Tiny	計 153 台
OS	Windows 10、CentOS 7	
アプリケーション	Microsoft Office 2019、SolidWorks 2024、Autodesk Revit 2024、各種フリーソフト等	
プリンタ	モノクロプリンタ、カラープリンタ、大判プリンタ (A0)	計 10 台
周辺機器	液晶プロジェクタ、スキャナ (A3)、書画カメラ等	
その他	電子黒板 (80V 型 タッチディスプレイ)	計 3 台

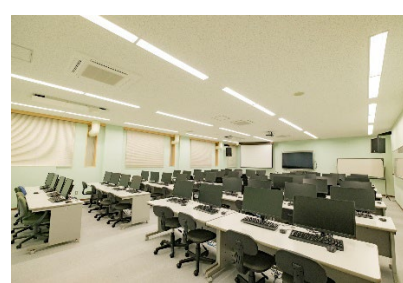
各部屋の PC 台数及び印刷可能サイズ			
	情報教育ルーム	マルチメディアルーム	LL 教室
パソコンの台数	50 台	50 台	53 台
印刷可能サイズ	A4・A3 モノクロ A4・A3 カラー (要申請)	A4 モノクロ A4・A3 カラー (要申請) A0・A1 カラー (要申請)	A4 モノクロ



情報教育ルーム



マルチメディアルーム



LL 教室

### 3-5 地域共同テクノセンター

地域共同テクノセンターは、地域産業との連携強化による地域の活性化という高専のミッションの1つを担う目的で設置されている。地域の産学官との連携に加え、全国高専のネットワークも活用しながら、社会や産業界が期待する人材を育成・輩出することを実践している。「秋田高専グローバル人材育成会」という協力企業会員との共同教育・共同研究を調整し、地域の人材と価値にイノベーション創出を目指していく。



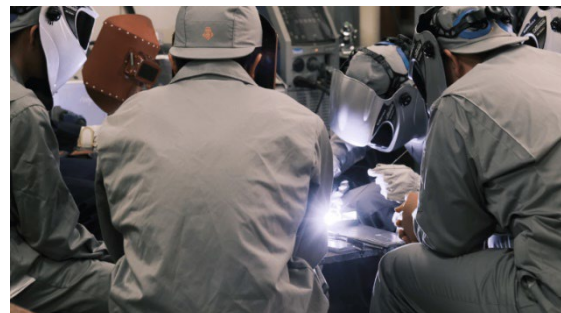
#### ■センターの事業

1. 技術相談の窓口「ワンストップサービス」の設置・運用
2. 学生等への地域企業の紹介、インターンシップ、キャリア教育等の調整
3. 地域定着人材（卒業生+リカレント・リスクリング人材）促進の調整
4. 再生可能エネルギー、半導体製造等の地域性を考慮した人材育成・技術開発の調整
5. 産学官連携研究プロジェクトの立案・実践

### 3-6 技術教育支援センター

機械加工設備を用いた実習は、実践的な物作りを目指す高専生にとって特徴ある教育の一つです。技術教育支援センター内にある実習工場には、学内共同利用施設として、数多くの旋盤やフライス盤等の基本的な設備はもとより、コンピュータ制御によるマシニングセンターや複合加工機、更には3次元測定機等の高度な最先端設備が設置されています。ここでは1年生で学ぶ基礎工作実習を初めとして、機械系の工作実習や創造設計製作、そして各系で行われる卒業研究や専攻科での特別研究に必要な実験装置の製作

等が行われており、また教員の研究活動にも利用されています。



## 4. 学生と学校生活

### 4-1 学生の定員及び現員 (令和6年4月1日現在)

#### 本科

区分		入学定員	収容定員	現員					
				1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	計
創造システム工 学科	機械系	160	800	154 (36)	44(11)	40(6)	31(6)	41(13)	812 (195)
	電気・電子・情報系				45(5)	48(8)	34(6)	38(5)	
	物質・生物系				35(11)	46(13)	35(12)	34(14)	
	土木・建築系				47(13)	43(17)	46(6)	51(13)	
計		160	800	154 (36)	171(40)	177(44)	146(30)	164(45)	812 (195)

( ) 内は女子学生内数

#### 専攻科

区分	入学定員	収容定員	現員		
			1学年	2学年	計
生産システム工学専攻	8	16	0(0)	1(0)	1(0)
グローバル地域創生工学専攻	16	32	19(8)	15(5)	34(13)
計	24	48	19(8)	16(5)	35(13)

( ) 内は女子学生内数 ※専攻科は令和4年度より、グローバル地域創生工学専攻の1専攻に改組

### 4-2 入学志願者数及び入学者数 (令和6年4月1日現在)

#### 本科(創造システム工学科)

選抜名称	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
推薦選抜	志願者数	113(34)	121(31)	88(23)
	入学者数	89(33)	110(31)	88(23)
学力選抜	志願者数	100(13)	72(10)	49(11)
	入学者数	81(9)	60(9)	47(11)
後期特別選抜	志願者数			18(2)
	入学者数			18(2)
計		170(42)	170(40)	153(36)

※学力選抜には「帰国生徒特別選抜」も含む。 ※令和4年度の募集人員の内訳は、推薦選抜 88名・学力選抜 72名。  
 ※令和5年度・令和6年度の募集人員の内訳は、推薦選抜 100名・学力選抜 60名。

#### 本科編入学(創造システム工学科)

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
志願者数	3(0)	0(0)	0(0)
入学者数	3(0)	0(0)	0(0)

( ) 内は女子学生内数

#### 専攻科(グローバル地域創生工学専攻)

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
志願者数	28(9)	28(10)	34(8)
入学者数	25(6)	17(8)	19(8)

( ) 内は女子学生内数



### 4-3 主な就職先

主な就職先（県内 24 名、県外 83 名）

東日本旅客鉄道、TDK、ENEOS、旭化成、サントリー、NTT東日本 - 東北、西松建設、東急建設、鹿島建設、東北電力、東京電力ホールディングス、日東電工、富士電機、日産オートモーティブテクノロジー、DOWAホールディングス、横河ソリューションサービス、東京都下水道サービス、国立印刷局、秋田県 他

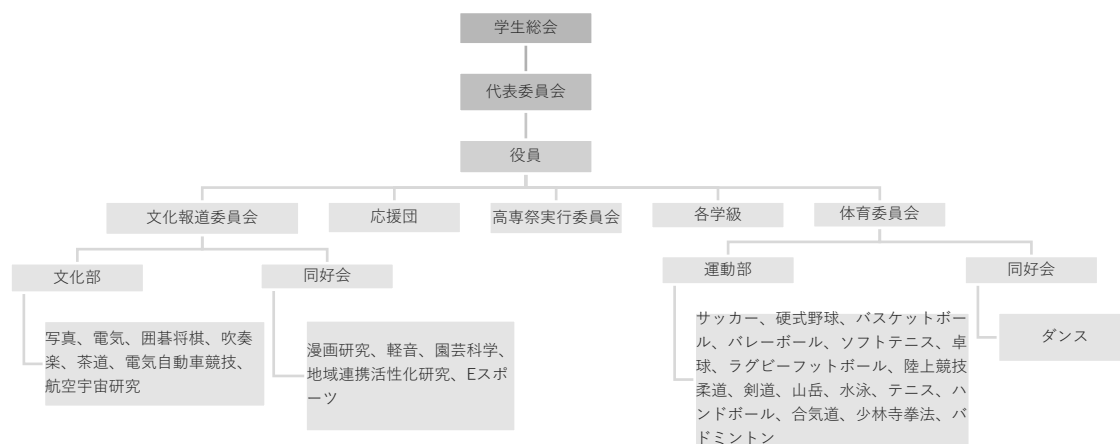
### 4-4 進学実績

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	合計
秋田高専専攻科	16	25	17	18	76
仙台高専専攻科		1	2		3
北海道大学	2		1	2	5
北見工業大学			1		1
弘前大学		1		1	2
岩手大学			1	1	2
東北大学	3	2	1	3	9
東北工業大学			1		1
秋田大学	5	9	6	2	22
秋田県立大学	2	1	1		4
筑波大学		3			3
千葉大学	1	4	1	2	8
東京農工大学	4		1		5
電気通信大学	1				1
工学院大学		1			1
日本大学			1		1
新潟大学		4	6	4	14
長岡技術科学大学	3	4	4	8	19
金沢大学	1	1			2
豊橋技術科学大学	3	3	7	4	17
広島大学	1				1
九州大学			1		1

#### 専攻科卒業後の主な進学先

- ・ 秋田大学大学院
- ・ 九州大学大学院
- ・ 北陸先端科学技術大学院大学
- ・ 東北大学大学院
- ・ 長岡技術科学大学大学院
- ・ 東京工業大学大学院
- ・ 総合研究大学院大学
- ・ 北海道大学大学院
- ・ 電気通信大学大学院

### 4-5 課外活動（クラブ活動）



### 4-6 課外活動（コンテスト）

- ・プログラミングコンテスト
- ・ロボットコンテスト
- ・飛行ロボットコンテスト
- ・全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

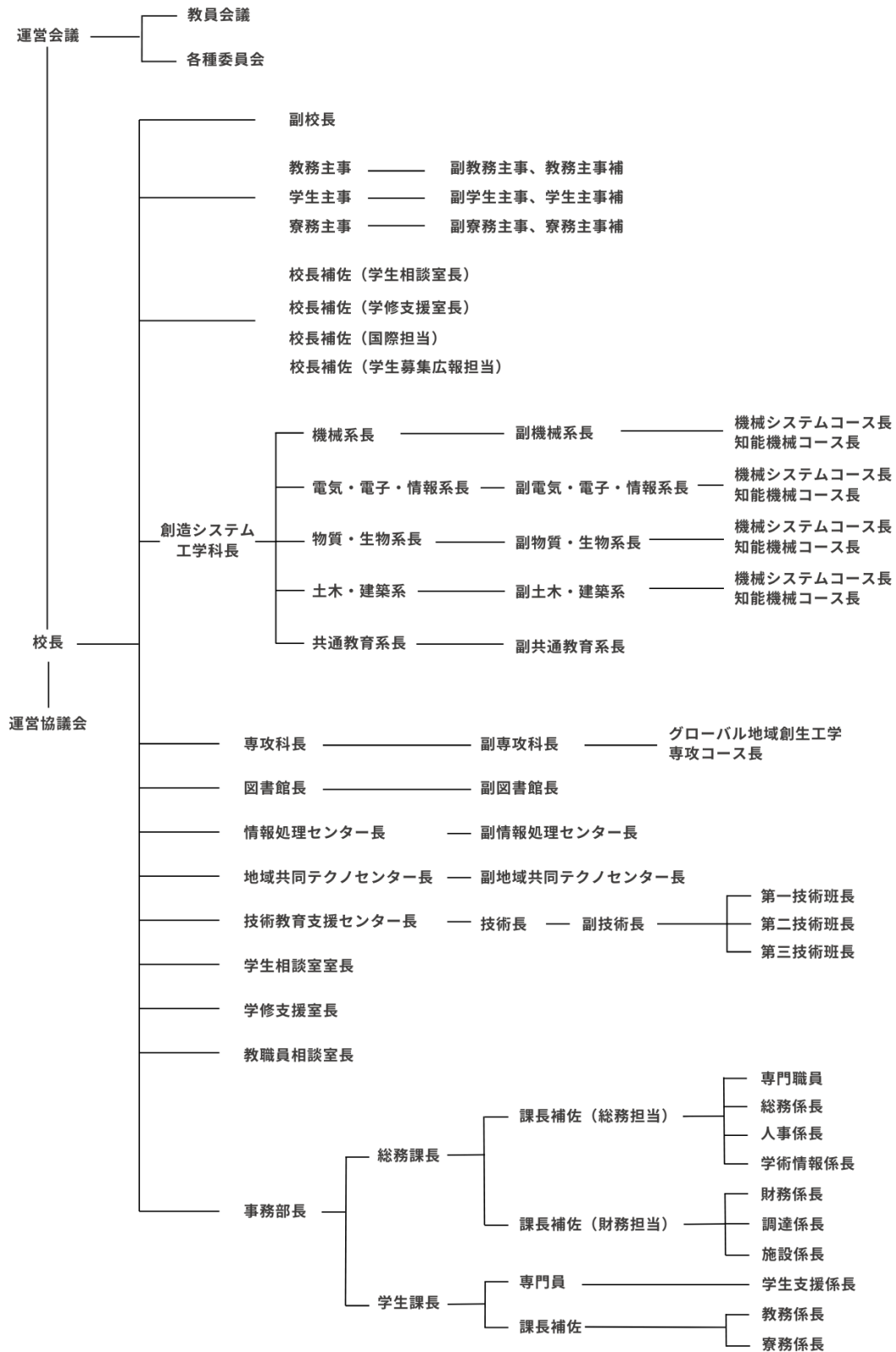
### 4-7 学校行事

秋田高専では年間を通じおおよそ次のような行事があります。

4月	入学式 始業式
5月	交通安全教室 到達度試験
6月	保護者面談期間
7月	東北地区高専体育大会 到達度試験
8月	オープンキャンパス 夏季休業
9月	スポーツ大会

10月	4学年工場見学旅行 高専祭、進学ガイダンス
11月	到達度試験
12月	冬季休業
1月	到達度試験
2月	卒業研究発表会 学年末休業
3月	卒業式

5-1 運営組織図 (令和6年4月1日現在)



## 5-2 歴代校長

	氏名	在職期間
初代	丹 桂之助	昭和 39 年 4 月 1 日 ~ 昭和 40 年 5 月 5 日
2 代	赤尾 孝太郎	昭和 40 年 7 月 1 日 ~ 昭和 41 年 4 月 25 日
3 代	野口 清	昭和 41 年 7 月 1 日 ~ 昭和 49 年 3 月 31 日
4 代	亀田 満雄	昭和 49 年 4 月 1 日 ~ 昭和 52 年 1 月 9 日
5 代	梅津 良之	昭和 52 年 3 月 16 日 ~ 昭和 56 年 2 月 22 日
6 代	鈴木 一夫	昭和 56 年 2 月 23 日 ~ 昭和 62 年 9 月 30 日
7 代	島田 平八	昭和 62 年 10 月 2 日 ~ 平成 5 年 3 月 31 日
8 代	萬谷 志郎	平成 5 年 4 月 1 日 ~ 平成 11 年 3 月 31 日
9 代	石亀 希男	平成 11 年 4 月 2 日 ~ 平成 16 年 3 月 31 日
10 代	島田 昌彦	平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 21 年 3 月 31 日
11 代	山田 宗慶	平成 21 年 4 月 1 日 ~ 平成 27 年 3 月 31 日
12 代	米本 年邦	平成 27 年 4 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日
13 代	植松 康	平成 31 年 4 月 1 日 ~ 令和 5 年 3 月 31 日
14 代	高橋 雅之	令和 5 年 4 月 1 日 ~

## 5-3 名誉教授

号授与年月日	氏名
平成 6 年 4 月 1 日	奥山 良俊
平成 7 年 4 月 1 日	吉村 卓
平成 12 年 4 月 1 日	相場 眞也
平成 12 年 4 月 1 日	軽部 昭夫
平成 12 年 4 月 1 日	高橋 恒雄
平成 13 年 4 月 1 日	荻原宏二郎
平成 14 年 4 月 1 日	門脇 義次
平成 14 年 4 月 1 日	坂上 登
平成 15 年 4 月 1 日	榎 国夫
平成 16 年 4 月 1 日	長谷川誠一
平成 16 年 4 月 1 日	伊藤 驍
平成 18 年 4 月 1 日	千葉 卓男
平成 19 年 4 月 1 日	伊藤 惇
平成 19 年 4 月 1 日	柳原 昌輝
平成 19 年 4 月 1 日	工藤 幹
平成 20 年 4 月 1 日	須川 浩
平成 21 年 4 月 1 日	島田 昌彦
平成 21 年 4 月 1 日	羽田 守夫
平成 21 年 4 月 1 日	成田 文雄
平成 21 年 4 月 1 日	麻生 正道
平成 23 年 4 月 1 日	宮田 克正
平成 24 年 4 月 1 日	折田 仁典

号授与年月日	氏名
平成 25 年 4 月 1 日	船山 齊
平成 25 年 4 月 1 日	成田 章
平成 26 年 4 月 1 日	対馬 雅己
平成 27 年 4 月 1 日	堀江 保
平成 27 年 4 月 1 日	渡邊 朋雄
平成 27 年 4 月 1 日	山田 宗慶
平成 29 年 4 月 1 日	浅野 清光
平成 31 年 4 月 1 日	若生 昌光
平成 31 年 4 月 1 日	野坂 肇
平成 31 年 4 月 1 日	米本 年邦
令和 2 年 4 月 1 日	上松 仁
令和 2 年 4 月 1 日	櫻田 良治
令和 2 年 4 月 1 日	佐藤 悟
令和 2 年 10 月 1 日	佐藤 恒之
令和 3 年 4 月 1 日	磯部 浩一
令和 3 年 4 月 1 日	駒木根隆士
令和 5 年 4 月 1 日	植松 康
令和 6 年 4 月 1 日	伊藤 浩之
令和 6 年 4 月 1 日	石塚 政吾

## 5. 組織・教職員情報

### 5-4 役職員 (令和6年10月1日現在)

役職名	氏名
校長	高橋 雅之
副校長、教職員相談室長	安東 至
副校長、地域共同テクノセンター長	榊 秀次郎
副校長、校長補佐(学生相談室長)	木澤 悟
校長補佐(学修支援室長)	上田 学
校長補佐(国際担当)	西野 智路
校長補佐(学生募集広報担当)	寺本 尚史
教務主事	伊藤 桂一
学生主事	菅原 隆行
寮務主事	池田 洋
専攻科長	山添 誠隆
創造システム工学学科長	伊藤 桂一
(専攻科)機械工学コース長、機械系長	木澤 悟
(専攻科)電気情報工学コース長、電気・電子・情報系長	伊藤 桂一
(専攻科)物質工学コース長、物質・生物系長	榊 秀次郎
(専攻科)建設工学コース長、土木・建築系長	金 主鉉
共通教育系長	菅原 隆行
図書館長	井上 誠
情報処理センター長	井上 誠
技術教育支援センター長	安東 至
事務部長	阿部 幸治
総務課長	赤津 光洋
学生課長	玉田 邦彦

### 5-5 役職員数 (令和6年5月1日現在)

区分	校長	教授	准教授	講師	助教	職員※	合計
人数	1	18	28	7	5	40	99

### 5-6 役職員の年齢構成 (令和6年5月1日現在)

年齢区分	校長		教授		准教授		講師		助教		小計		職員		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
20-29									2		2	0	4	3	6	3
30-39					4		4	3	3		11	2	10	4	21	6
40-49					13	3					13	4	8	6	21	10
50-59	1		16		5	1					22	1	4	1	26	2
60-			2		2		1				4	0			4	0
合計	1	0	18	0	24	4	4	4	5	0	52	7	26	14	78	21

## 5. 組織・教職員情報

### 5-7 教員一覧 (令和6年4月1日現在)

機械系	機械システムコース	教授	池田 洋
		准教授	野澤 正和
		准教授	櫻田 陽
		准教授	渡部 英昭
		准教授	今田 良徳
	知能機械コース	教授	木澤 悟
		教授	宮脇 和人
		教授	小林 義和
		准教授	柳町 拓哉
		助教	佐々木 崇紘

電気・電子・情報系	電気エネルギーシステムコース	教授	安東 至
		教授	田中 将樹
		准教授	山崎 博之
		准教授	坂本 文人
		助教	小林 勇斗
	情報・通信ネットワークコース	教授	伊藤 桂一
		准教授	竹下 大樹
		准教授	菅原 英子
		講師	カラベス アンドラデ エドアルド
		講師	佐藤 貴紀
		助教	野村 政宗

物質・生物系	マテリアル・プロセス工学コース	教授	丸山 耕一
		教授	西野 智路
		准教授	石塚 真治
		准教授	野中 利瀬弘
		准教授	趙 明
	バイオ・アグリ工学コース	教授	榊 秀次郎
		准教授	横山 保夫
		准教授	野池 基義
		准教授	クロフツ 尚子
		講師	船木 憲治

土木・建築系	国土防災システムコース	教授	金 主鉉
		教授	山添 誠隆
		准教授	増田 周平
		講師	丁 威
		助教	中嶋 龍一朗
	空間デザインコース	教授	寺本 尚史
		教授	井上 誠
		准教授	長谷川 裕修
		准教授	葛西 誠
		助教	鎌田 光明

共通教育系	教授	菅原 隆行
	教授	上田 学
	教授	小林 貢
	教授	金田 保則
	准教授	長井 栄二
	准教授	米澤 晋彦
	准教授	黒木 暁人
	准教授	佐藤 尊文
	准教授	森本 真理
	准教授	加世堂 公希
	准教授	石井 直人
	准教授	三浦 大介
	准教授	櫻井 美子
	准教授	上林 一彦
	准教授	ウィナルト クルニアワン
講師	ティラビ イビフ	
講師	内間 優子	
講師	國部 友弘	

	嘱託教授	伊藤 浩之
--	------	-------

## 6-1 財務情報 (令和5年度実績)

区分	決算額	比率
運営費交付金	205,555	22.8%
自己収入	215,488	23.9%
産学連携等研究収入	35,289	3.9%
寄附金収入	22,470	2.5%
その他補助金	283,693	31.5%
施設整理費補助金	139,114	15.4%
計	901,609	

区分	決算額	比率
教育研究費	354,106	39.7%
一般管理費	74,223	8.3%
産学連携等研究費	25,798	2.9%
寄附金事業費	14,921	1.7%
その他補助金	283,693	31.8%
施設整備費	139,114	15.6%
計	891,855	

## 6-2 敷地 (令和6年4月1日現在)

校舎 45,461 m <sup>2</sup>	運動場 33,625 m <sup>2</sup>	
寄宿舍 18,421 m <sup>2</sup>	職員宿舍 3,758 m <sup>2</sup>	計 101,265 m <sup>2</sup>

## 6. その他データ集

### 6-3 建物

(令和6年4月1日現在)

	区 分	構 造	延面積 (㎡)	竣工年月
校舎	管理棟	R3	1,427	S39.3
	講義室棟 (高学年)	R3	2,308	S39.3
	科学技術教育棟 (低学年) 地域共同テクノセンター	R4	1,927	H13.1
	階段教室棟	R2	692	S55.2
	研究室棟	R3	513	S40.3
	機械系棟	〃	1,755	S40.3
	電気・電子・情報系棟	〃	1,892	S40.3
	物質・生物系棟	〃	1,765	S40.3
	物質・生物系別棟	〃	510	H6.3
	土木・建築系棟	〃	1,884	S45.3
	専攻科棟	〃	937	H8.3
	技術教育支援センター実習工場	S1	731	S40.3
	技術教育支援センター実習工場別館	〃	200	H15.10
	教育・交流棟	R1	315	S49.3
	熱機関実験室	S1	135	S46.3
	電気工作実習室	〃	98	S46.12
	渡廊下		379	
		小 計		17,468
寄宿舎	寄宿舎 管理棟	R1	1,017	S39.3
	〃 東1号棟	R3	880	S45.3
	〃 東2号棟	〃	1,168	S45.3
	〃 西1号棟	〃	1,346	S39.3
	〃 西2号棟	〃	1,094	S41.3
	渡廊下		115	
		小 計		5,620
その他	図書館	R2	1,588	S47.11
	厚生会館	〃	681	S56.3
	第1体育館	S1	1,026	S41.3
	第2体育館	〃	895	S53.12
	武道場	〃	467	S43.1
	プール (屋根付)	R1	127	H6.8
	課外活動施設	S1	155	S59.3
	課外活動部室	〃	246	S42.3
	警備員室	R1	13	S39.3
	車庫	S1	82	S41.3
	車庫	R1	69	S39.3
	ポイラー室	〃	144	S39.3
	受変電機械室	〃	76	S47.11
	廃棄物保管庫	S1	81	S54.3
	渡廊下		20	
	屋外便所		32	
	体育器具庫		297	
	材料庫 他		154	
		小 計		6,153
	職員宿舎		850	
	小 計		850	
	合 計		30,091	

R：鉄筋コンクリート造 S：鉄骨造



## 6-4 国際交流協定校

(令和6年4月1日現在)

No.		学校名	国名	締結年度
1	※1 (11高専包括)	国立 リールA 技術短期大学	France	2008
2		国立 (アルトワ大学) ベトゥーヌ技術短期大学、ランス技術短期大学	France	2012
3		国立 ブロワ技術短期大学	France	2015
4		国立 ルアーブル技術短期大学	France	2015
5		国立 リトラル・コート・ドパル技術短期大学	France	2015
6	※2 (6高専包括)	国立 メトロポリア応用科学大学、トゥルク応用科学大学	Finland	2012
7	土木・建築系	国立 中央地域工科経済水資源大学	Vietnam	2015
8	※3 (11高専包括)	国立 ヴァランシエンヌ技術短期大学	France	2017
9	秋田工業高等専門学校	国立 泰日工業大学	Thai	2018
10	土木・建築系	国立 トゥイロイ大学	Vietnam	2018
11	※4 (9高専包括)	国立 モンゴル高専連盟	Mongol	2019
12	秋田工業高等専門学校	国立 シンガポール・ポリテクニク	Singapore	2020
13		私立 京東大学	Korea	2020
14		国立 グァナファト大学	Mexico	2020
15		国立 グアダラハラ大学	Mexico	2020
16		私立 ヨンジン専門大学校	Korea	2022
17		私立 大葉大学	Taiwan	2023

※1 (11高専包括)	秋田高専、八戸高専、一関高専、仙台高専、鶴岡高専、福島高専、函館高専、小山高専、長岡高専、旭川高専、岐阜高専
※2 (6高専包括)	秋田高専、仙台高専、八戸高専、一関高専、鶴岡高専、福島高専
※3 (11高専包括)	秋田高専、八戸高専、旭川高専、函館高専、一関高専、仙台高専、鶴岡高専、福島高専、小山高専、長岡高専、岐阜高専
※4 (9高専包括)	秋田高専、函館高専、苫小牧高専、釧路高専、旭川高専、八戸高専、一関高専、仙台高専、鶴岡高専

## 6-5 公開講座開催実績

(令和5年度実績)

共通：共通教育系の略

No.	系	開催日	タイトル	対象者	備考
1	共通	4/15(土)～ 【計11回】	令和5年飯島地区「高専スマホ教室」	飯島地区にお住まい で、スマホ操作に不慣 れな方	
2	共通	6/10(土)	秋田高専公開講座「飯島柔道クリニック」	秋田県内中学柔道部員	
3	E系	7/15(土)	「2023 あきたキッズプログラミングアワード」に おけるプログラミングスクール	小学4年～6年	秋田魁新報社主催
4	共通	6/21(水) ～3/15(金) 数回	琴丘小・森岳小学校英語交流授業	琴丘小学校 6学年	
5	共通	7/20(木)	琴丘中学校英語交流授業	琴丘中学校1年～3年	
6～ 10	全	8/6(日)	第5回 夏休み！自由研究道場 『材料の形による強さを科学する』 『光る！聞こえる！電子オルゴールを作ろう！』 『熱が伝わりにくい材料を探してみよう』 『バスタでブリッジ！身近な軽い材料で強い橋をつくってみよう』 『ロボットカーをつくってみよう』	小学3年～6年	後援：秋田市教育 委員会
11	C系	8/12(土)	エナジAMPパーク 夏休み親子工作教室『ロボッ トカーをつくってみよう』	小学生	能代エナジAMPパ ークと共催
12	M系	9/2(土)	秋田高専公開講座「シャボン玉の科学」	小学4年～6年	
13	共通	9/15(金)	二ツ井中学校英語遠隔交流授業	二ツ井中学校1年～3 年	
14	共通	9/29(金)	第1回八幡平中学校英語授業サポート	八幡平中学校2年	
15	C系	10/9(月)	自然科学学習館サイエンスサポーター自主イベン ト「きらめき de サイエンス」	指定無し	県産業技術センタ ー、サイエンスサ ポーターと共催
16	共通	10/14(土)	令和5年度あきたサイエンスクラブ科学講座『光 についてアレコレ！』	中学生高校生	令和5年度イノベ ーター育成事業 (秋田県)
17	M系	10/14(土)	秋田高専公開講座「3DCAD で設計&紙飛行機を飛 ばそう」	小学4年～6年	
18	C系	11/18(土)	「高専のカガク」暑さ寒さを電気に変えてみよう	小学生以上	自然科学学習館と 共催
19	共通	10/27(金)	義務教育学校阿仁学園 後期課程 英語遠隔交流授 業	義務教育学校阿仁学園 後期課程(中学校)1 年～3年	
20	E系	10/22(日)	レゴを使った小学生向けプログラミング講座	小学生	秋田魁新報社主催 の「さきがけプロ グラムアワード」 の一環
21	共通	11/7(火)	出前授業：秋田市立河辺中学校	河辺中学校3年生	
22	B系	9/2(土)～10/9 (日)	第21回あきたエコリサイクル～ゼロカーボンと 3Rで変わる未来」	指定無し	あきたエコフェス 実行委員会主催
23	B系	2/17(土)	楽しく交通安全を学ぼう！『あ！A！(人工知 能)でキャラが進化したよ！』	小学生1年生～3年生	
24 ～ 28	全	3/23(土)	来て！見て！楽しんで！秋田高専フェスタ 「3年生で製作する移動ロボットを操作してみよう」 「レゴロボットを使ったプログラミング体験」 「化粧品科学」「建築・建設系のクイズ」 「メトロノームの同期現象の体験」	小学生～中学生	
29	共通	2/26(月)	第2回義務教育学校阿仁学園 後期課程 英語遠隔 交流授業	義務教育学校阿仁学園 後期課程1年～2年	
30	共通	2/29(木)	第2回八幡平中学校 英語遠隔交流授業	八幡平中学校1年	
31	共通	2/27(火) ～3/29(金) 数回	令和5年度すぎっちファンドによる「シルバース マホ教室」	各回10～15名程度	
32	共通	3/1(金)	第1回上小阿仁中学校英語遠隔交流授業	上小阿仁中学校1年、 3年	

## 7-1 キャンパスマップ



## 7-2 アクセス

電車の場合	①秋田駅 → 最寄駅【土崎駅】(JR奥羽本線約8分) ②土崎駅 → 秋田高専(タクシーの場合:約10分、徒歩の場合:約25分)
バスの場合	①秋田駅 → 最寄バス停【飯島コミュニティセンター入口】(土崎線、五城目線、追分線 約30分)
タクシーの場合	①秋田駅 → 秋田高専(約30分)

## 7-3 連絡先

独立行政法人 国立高等専門学校機構 秋田工業高等専門学校  
 〒011-8511 秋田県秋田市飯島文京町1番1号  
 018-847-6005(代表) 受付時間 8:30-17:00 [土・日・祝日除く]

